



5歳児後半に見られる姿



地域の人々と触れ合ったり、相手の役に立ったりすることで、地域に親しみを覚える。



公共の場所や施設に出かけて体験することで、それらを大切に使うことを覚えていく。



本や情報機器などから必要な情報を取り入れ、友達と共有したり活用したりするようになる。

この姿につながる5歳までの育ち



2歳児

保育者や周囲の人々に温かく接してもらいながら、見守られる安心感を持ち始める。

3歳児

地域の伝統や文化に触れる経験を通して、社会とのつながりを意識し始める。



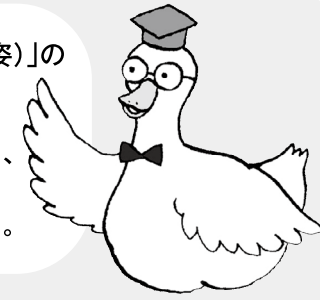
4歳児

地域と交流する中で、様々な役割や個性をもった人々が暮らしていることを知る。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」の社会生活との関わり。

ここでは、指針・要領の記載を読み解きながら、5歳児後半で見られる具体的な姿、そして、その姿につながる5歳までの育ちを見てみよう。



やさしい三法令

其の十七

社会生活との関わり

シリーズ 極める! 10の姿

言葉CHECK!

社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもちようになる。また、保育所内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

保育所保育指針第1章4-(2) および (幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にも同様の記載あり)

この姿のポイント

◎人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもちようになる



子どもは、保育者、友達、園全体、地域へと少しずつ人間関係の幅を広げていく。そうした関わりの中で周囲から温かく接してもらおうと、やがて「自分も誰かの役に立ちたい」という思いが生まれてくるんじゃない。保育者は、子どもたちが地域と関わる機会を意識して設け、そのときの子どもの心の動きをしっかりと見つめよう。

◎情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる



5歳児後半ごろになると、子どもたちの好奇心や探究心はさらに高まり、様々な方法で情報を得ようとする。保育者は、写真や図鑑などを保育室に置いてみたり、情報の収集の仕方を教えたり、ときには公共の施設を訪れる機会を設けたりするなどして、子どもたちが地域や社会に興味や親しみをもてるようにしよう。

食料を見つけて仲間知らせるとき、自分が役に立つ喜びを感じるよ!

